



『防災の日によせて』

9月1日は、大正12年の関東大震災の教訓を忘れないため「政府が、地方公共団体等関係諸機関をはじめ、広く国民が台風、高潮、津波、地震等の災害についての認識を深め、これに対処する心構えを準備する」とし制定された啓発日です。

平成30年7月豪雨の災害は、私達に色いろな教訓を残し今まさに復旧、復興とともに「防災」について、一人ひとりが真剣に向き合わなくてはならないことを示唆し、たくさん問題提起をしてくれています。

8月も台風がたくさん日本列島を通過し、その度に大雨、浸水、土砂災害の危険を心配された保護者の皆様も多かったことと思います。

「広報さか8月号」でもご覧いただいているとは思いますが、「①避難準備・高齢者等避難開始」→「②避難勧告」→「③避難指示」と災害の危険度が高くなっていきます。

保育園は、大雨警報（土砂災害）が発令されても休園にはなりません、坂町より同時に「②避難勧告」が発令されます。その場合、速やかなるお迎えや登園を見合わせていただくお願いを緊急携帯メール（坂町ラインネット）にて配信することがありますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

また、砂防ダムなどの対応が完了するまでは、乳幼児を避難させるには、保育園前の総頭川の氾濫など想定すると大変危険が伴います。警報、避難勧告など発令された場合には、保育園の2階への垂直非難をしながら、保護者の皆様のできるだけ早いお迎えをお願いするという方法を取りたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。

緊急携帯メールとともに『坂みみよう保育園ホームページ』でも情報を提供することがありますので、ご確認ください。

坂みみよう保育園ホームページ紹介

パソコン、携帯電話で『坂みみよう保育園ホームページ』で検索していただくと、保育理念、基本方針、保育目標、保育園の紹介、年間行事、保育園だより、今月の行事、給食だより、お知らせ（保育の実践の写真やドキュメンテーション）等、見ることができますのでご利用ください。

平成30年 9月の保育園だより



坂みみよう保育園

復旧復興の中で

～自立とは自己実現の世界の充実～

草むらの虫の鳴き声やアキアカネ(とんぼ)の飛び姿に初秋を感じる頃となりましたが、大雨土砂災害の復旧復興に向け、保護者の皆様、地域の皆様それぞれのご苦労やご心配事が今まで以上に多くなるとは思いますので、残暑厳しき折ご自愛ください。

先月4日にインフルエンザA型の終息宣言を広島県西部保健所からいただくまで、保護者の皆様にはたいへんご心配をおかけいたしました。

その後、子ども達の健康状態も回復し、プールあそびや夏の感触あそび、夏祭りごっこ(幼児)などを通して、試したり工夫したりしながら不思議の世界を共有する姿に、個々の成長や子ども達自身の表現の豊かさを感じているところです。

しかしながら熱中症、台風の通過、粉塵の心配など、いつもの夏に比べて不自由な生活をさせてしまっていることも否めませんでした。

また、7、8月の退園(転居や転園)により突然の別れとなった乳幼児が11名もおり、子ども達も職員も驚きを隠せない状況です。

小屋浦みみよう保育園の幼児クラスの子どもの大半は、自宅の床上浸水、土砂や濁流による全壊、半壊等を目の当たりにしたり、自家用車が濁流にのみ込まれる様子を見たりしています。その光景を脳裏に焼き付けながら少しずつ変化する景色を園バスから眺めながらの登園です。

坂、小屋浦地区ともに想像を絶する災害後の子ども達の心の中には、色いろな思いがあり、周りにいる大人の言動にも影響を受けて不安になったりもしています。

「あのね、ほくんちつぶれたんよ!」「私の家の車が流れてもうないんよ!」「ママが奇跡的にうちは助かった…って言うった!」「ゴーって音がして、二階に上って、ろうそく点けてご飯食べたんよ!」

「パパがおらんかって、ママが車で逃げよう!って言ったけど水がこまできて(おへそを指し)消防団の人に助けてもらったんよ!」「お家の中にも砂がいっぱい入ってきたんよ!」「みんなであそんだんよ!!(避難所でのこと)〇〇先生が遊びに来てくれて嬉しかった!」

中には「死」を口にする子どもや子ども同士の会話の中にも「今小屋浦やばいいんじゃろう!?(坂の年長児が小屋浦の年少児とすれ違う時に)」発言もあり、子ども達の言葉から私達大人が子ども達の様々な思いを汲み取り、どのような寄り添い方をすべきなのか職員同士で話し合うこともしばしばありました

たくさんの被災者支援の活動で保育園を訪問して下さる方やボランティア活動をされている方々との出会いもたくさんありました。

その方々は口を揃えるように、「こんな時だから楽しいと思える時間を共有し、災害を忘れる時間を少しでも多くつくりましょう。それがあそびの重要性です。」「死を口にするなら生きていうって言う実感言葉を言葉や体験で伝えましょう。」「家族が揃う喜びを感じ合わせましょう。」「“やばいいんじゃろう!?”の言葉の奥にある“いっしょにあそぼうね”の思いへの理解を深めましょう。」と語られました。

復旧復興の中で、少しずつ周りの景色は変化し、不便さも解消されてはきました。多くの方々との出会いの中で、笑いが連鎖する光景を子ども達に見た時、災害からの自立には、友だちとの関わりを通して、『自己実現の世界』つまり「自分でやりたいこと」を「自分で見つける力」の育成こそ重要だと痛感しました。

本当の意味での復旧復興は、自己実現の世界求めて、坂みみよう、小屋浦みみよう保育園の子ども達や職員が、より楽しい保育を目指しながら、あそび環境を準備し、交流することから始まるように思えてなりません。(園長 倉本弘子)

保育参観・

家庭教育学級講演会(幼児クラス)

8月に予定しておりましたが、夕涼み盆踊り会を延期としておりましたが、年長児と担任が異年齢で楽しむあそびを色いろ工夫し、考えたことを形にし、夏まつりプロジェクトとして、異年齢の子ども達や保護者の皆様との触れ合いを楽しみたいと思います。

保護者会さくらんぼ会が、夕涼み盆踊り会用に準備してくださっていた、景品やカードも利用させていただきます。さくらんぼ会役員の皆様のお手伝いはありませんので、ご家族でお楽しみください。

日時: 9月1日(土)

登園~10時30分

幼児異年齢交流保育参観 『夏まつりごっこ』

10時40分~11時50分

家庭教育学級講演会 『親子であそぼう』

あそび工房ゆめみ主宰 南夢未先生

(子ども達とともにご家族で参加)

※盆踊りの時間もありますので、ご家族で踊ってご参加ください。

※事前申し込みの方のみ、託児もあります。
※家庭教育学級終了後、幼児クラス全児降園です。午後からの保育をご希望の場合は、愛情弁当の準備をお願いいたします。

※土曜日の保育を希望の乳児クラスは、通常保育です。



園開放の再開と小屋浦パオちゃん

ルームを坂みみよう保育園で!!

災害後中止していた園開放を再開します。(月・金)また、小屋浦パオちゃんルームのスタッフが子育て支援を坂みみよう保育園で再開します(火~木)。

小屋浦地区、坂地区のみならず、広島市や呉市の何方でも利用できますので、ご近所の未入園の保護者の皆様に、お知らせください。

